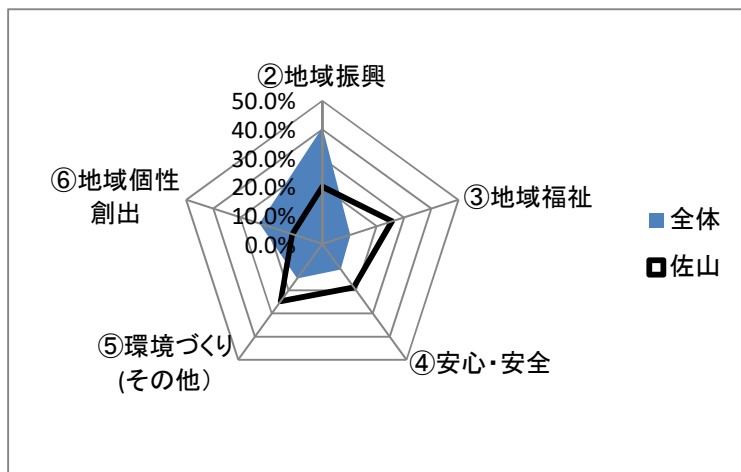


佐山地区地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和4年度)

■地域の情報

地域人口	2,572人	自治会数	12
世帯数	1,021世帯	自治会加入率	85.1%

※数値は、令和5年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	9,554,000 円
交付金決算額	9,519,000 円
その他収入	20,349 円
交付金決算額/配分額	99.6%

各分野の決算

①協議会運営	3,740,770 円
②地域振興	642,070 円
③地域福祉	820,909 円
④安心・安全	601,600 円
⑤環境づくり(土木工事)	2,588,000 円
⑤環境づくり(その他)	792,125 円
⑥地域個性創出	353,875 円
決算総額	9,539,349 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

地域の住民や各種団体等が相互に協力・連携することにより、コミュニティ意識を高め、地域全体で課題の解決に取り組み、安心して暮らせる地域づくりを目指します。

■総括

今後も、行政や地域団体等と連携しながら、佐山の暮らしを良くするための「第4次佐山地区地域づくり・福祉活動計画(令和4～8年度)」を地域全体で着実に実行することで、子どもから大人までの幅広い年齢層の交流を図り、地域の中で人と人をつなぎ、安全安心で住みやすい地域をつくります。

■分野別事業名

① 協議会運営	協議会及び事務局の運営
② 地域振興	地域づくり協議会だより発行事業、地域活性化交流活動推進事業、地域振興活動推進事業
③ 地域福祉	買物・病院便運行事業、健康づくり活動推進事業
④ 安心・安全	自主防災組織基盤強化事業、子ども見守り事業、交通安全対策事業
⑤ 環境づくり	土木工事(法定外公共物)、フラワーロード花壇整備事業、地域環境整備事業、ふれあいの森整備事業
⑥ 地域個性創出	フラワーロード研修・交流広場整備事業、地域イベント開催支援事業

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	自主防災組織基盤強化事業	決算額	511,662円
	目的	自主防災組織の基盤強化を図ります。		
	実施内容	自主防災会の「防災先進地視察研修」やトランシーバー交信訓練、小学4年生の「防災体験学習」の実施、災害用資機材の点検・備蓄管理、避難行動マニュアルの全戸配布により、地域内の防災意識及び防災組織力のさらなる向上を図りました。		
	実施時期	令和4年6月5日、7月12日、11月27日、令和5年1月29日		
	参加人数	98人		
	成果・評価	自主防災会本部や各地区の防災リーダーを中心に、「防災先進地視察研修」を実施したことで、地震や洪水、火災等の模擬体験を通して、改めて早めの避難の重要性を認識するとともに、防災に対する知識や行動力を身につけることができました。また、小学4年生を対象として、災害の種類や対策について、紙芝居やDVDを使って説明したり、非常食やダンボールベッド等の防災用品を展示したりと、わかりやすい「防災体験学習」を実施したことで、子どもたちに防災への興味を持たせることができました。		
今後に向けて	今後も、自治会や行政と連携しながら、命を守る行動をとる避難訓練やトランシーバー交信訓練、災害の種類や対象者に応じた、「防災先進地視察研修」や「防災体験学習」を継続し、地域住民の自主防災意識を高め、災害に強い組織づくりを図ります。			
②	事業名	フラワーロード花壇整備事業	決算額	385,883円
	目的	地域内の環境美化と、世代間の交流を図ります。		
	実施内容	地域のボランティア組織「フラワーロード佐山」を中心に、国道190号線沿いの花壇づくりを行いました。		
	実施時期	通年		
	参加人数	1,334人		
	成果・評価	佐山の玄関口となる、国道190号線沿いの「フラワーロード佐山」の花壇に、可愛いビオラ(赤、白、黄、紫の4色)約2,400本を植え付けることができました。また、昨年度から始めた小学3年生の「花の植え付け体験」、今年度も、小学校の環境学習として実施したことで、子どもたちの環境美化意識を高めることができました。		
今後に向けて	今後も、「子どもたちの植え付け体験」を継続し、地域内の環境美化と、世代間交流の場となる花壇づくりを行います。			
③	事業名	買物・病院便運行事業	決算額	778,680円
	目的	交通弱者の日常生活を支える交通手段を確保します。		
	実施内容	コミュニティタクシーと連携して、地域外(阿知須)への「買物・病院便」を週3回運行し、地域内の交通弱者の日常生活を支援しました。		
	実施時期	週3回(月・水・金)		
	参加人数	1,243人(利用者)		
	成果・評価	阿知須方面への「買物・病院便」の運行により、交通弱者への生活支援と、コミュニティタクシーのさらなる充実を図ることができました。		
今後に向けて	今後も、コミュニティタクシーを活用した地域外への運行を継続し、交通弱者の日常生活を支える交通手段を確保します。			